

煙草（喫煙）への意識調査に関する研究 （中学生・大学生アスリートの比較）

森山 雄平（生涯スポーツ学科 地域スポーツコース）
指導教員 上利 理代

キーワード：喫煙，パフォーマンス，イメージ

1. 緒言

喫煙は、呼吸器のガン（肺、気管支）や心臓病、生活習慣病発症における重要項目となっている。今日、世界的に禁煙への動きが活発になっているが、依然として多くの人がタバコを吸っている。スポーツ現場における喫煙関係の規制については、1988年にオリンピック会場で禁煙になったことがまず挙げられる。煙草のイメージからは真反対であり、永年にわたり日本の夏の風物詩・健全な肉体と精神の代名詞として受け取られている高校野球は、2003年によく甲子園球場が全面禁煙となり、スタンドから喫煙する姿や灰皿が消えた。また国際サッカー連盟は1986年のメキシコ大会にタバコ関連のスポンサー排除を実施し、2002年の日韓大会で会場全面禁煙などの規制が行われた。このように世界中でも煙草（喫煙行為）の排除、さらに禁煙への動きが高まっているが、まだまだ喫煙者が多いのである。

そこで本研究では中学生と大学生の意識を比べどのような変化があるのかはつきりさせ、介入すべき指導項目について検討することを目的とした。

2. 研究方法

本研究の調査対象は競技スポーツを習慣とする中学生と大学生。さらに、高い競技志向を持った集団が望ましいと考えたため、中学生はプロサッカークラブ所属のジュニアユース31名、大学生も1部リーグ所属クラブの20歳以上選手31名とした。

3. 結果と考察

中学生は煙草に対する意識は表やグラフからも高く感じられた。どの質問項目に関しても、煙草

（喫煙）に対してポジティブに考えている選手は少なく、ネガティブな意見、回答が多かった。自由記述でも煙草（喫煙）は良くないという意見が多かった。大学生に関してもどの質問項目に関しても煙草（喫煙）に対してポジティブに考えている選手は少なく、ネガティブな意見、回答が多かった。しかしながら、やはり中学生と違って煙草（喫煙）に対して、良いとは思わないが別に何も思わないという意見、回答が多かった。

中学生（部活動者ではなくジュニアユース所属選手）の方が大学生（競技志向の高い20歳以上の選手）よりも意識が高いという結果が出た。中学生の傾向として、基本的に煙草（喫煙）に対して悪いイメージしか無いということがアンケートの回答から分かった。

4. まとめ

スポーツの世界から喫煙行為を無くしていくには、このような意識を改善しなければいけないと感じた。喫煙行為は身体に害を及ぼす行為でスポーツをするアスリートにとっては絶対にプラスになるような行為では無い。最終的にはスポーツ界から喫煙行為をする選手がいなくなれば良いと思う。

引用・参考文献

東山 明子 2007年 アスリートへの禁煙支援
禁煙科学, 1巻3号

遠藤 明 2008年 高校生の喫煙に対する認識
と禁煙教育の効果, 禁煙会誌 vol. 3 pp7-10.